

GLOBAL NIGHT TIME RECOVERY PLAN

CHAPTER 4

ナイトライフシーンを持続させるために

ナイトライフ産業におけるワーカーのための支援モデル

CONTENTS

- INTRODUCTION / はじめに
- WHO ARE THE NIGHTLIFE WORKERS? / ナイトライフ・ワーカーとは？
- CURRENT NEEDS / 現在のニーズ
 - Nightlife worker survey / ナイトライフ・ワーカーに関する調査
 - Direct Cash and Rent Assistance / 現金と家賃補助
- CHALLENGES IN ADDRESSING THE NEEDS OF NIGHTLIFE WORKERS / ナイトライフ・ワーカーのニーズに応えるうえでの課題
- RECOMMENDATIONS & CASE STUDIES / 提言とケーススタディ
 - Short Term Solutions / 短期的な解決策
 - Case Study: CARES for Music (US) / ケーススタディー：CARES for Music（アメリカ）
 - Case Study: When The Night Fell -The South African Experience / ケーススタディー：When The Night Fell（南アフリカの経験）
 - Sustainable Solutions / 持続可能な解決策
 - Case study: COSIMO Foundation / ケーススタディー：COSIMO foundation
 - Case study: Governance and the future workplaces for nighttime creative industries / ケーススタディー：夜間のクリエイティブ産業の運営と未来のワークプレイス
- Conclusion / 結論
- FURTHER READING / 参考文献
- CONTRIBUTORS / 寄稿者
- TEAM / チーム

" パンデミック前は、自分は成功したアーティストだと思っていた。
今はどうすればホームレスにならないかを模索している "

— ANONYMOUS SURVEY SUBJECT, SUMER 2020

COVID-19の蔓延を防ぐための世界的なロックダウンの一環として、2020年3月にナイトライフは停止した。ナイトライフ産業で働いていた人々は突然、仕事をなくす状態に陥った。2021年の折り返し地点では、多くの国で感染率の上昇が続いており、企業の倒産が続いている。ワクチンや迅速な検査技術などの励みになるようなニュースがあるにも関わらず、このパンデミックは終わりそうになく、ナイトライフの閉鎖は一時的なものという希望は潰れてしまった。ナイトライフの芸術文化施設は最初に閉鎖され、(再び)オープンするのは一番最後となるだろう。ナイトライフ産業で働いていた人々の状況は、悲惨である。この文書は、政府や地域社会がその影響を軽減するために利用できる、世界中の実践的な戦略の紹介を目的とする。

パンデミックがクリエイティブ産業に与える経済的影響は驚異的だ。ブルッキングス研究所は、クリエイティブ部門において、米国だけで今年の4月1日から7月31日までの間に約300万人の雇用と1,500億ドルの売上高の損失を推定している。また、最も包括的な支援を行ってきたドイツでは、2020年夏の終わり頃の、クリエイティブ産業の失業率は全国平均より20%以上高く、パフォーマンスに依存する分野での失業率は、全国平均の2~3倍となっている。ウイルスに非常にうまく対処してきた韓国は、2020年の最初の9ヶ月間の文化、娯楽、観光関連産業の損失を92億ドル(米国)と見積もっているが、これは観光客の往來の損失が81%に達したためである。

ナイトライフの労働者は、自分たちの収入がなくなるのを目の当たりにし、それ以来破産しない方法を模索してきた。一部の労働者は救済資金や補助金を利用することができたが、それでは不十分だった。私たちは11カ国の夜の芸術・文化産業に携わる300人以上の個人を対象に調査を行った。98%が新型コロナウイルスによって収入を失い、援助を受けたのはわずか49%(主に失業支援)であり、受けている支援が有益であると主張したのはわずか15%であった。調査対象になった人たちの中には救済資金が尽きてしまい、追加の救済が行われていない者もいる。

ナイトライフの主要な拠点は都市部にあり、生活費が高く、経済的にも非常に不安定な状況にある。エッセンシャルワーカーに分類されないナイトタイムエコノミーに従事する労働者は、貯金も含め、資金を使い尽くしている。ナイトライフ産業で生計を立てていた家庭は、経済的な危機に瀕している。これらのダメージを元通りにするのは難しく、クリエイティブ産業で知られている都市は脅かされている。また、調査では、ナイトライフ産業に従事する人たちのメンタルヘルスの問題も報告されている。

ナイトライフ産業は、そのビジネスモデル、政府のサービス、健康と社会的支援、文化的価値システムはなど、多くの構造的な問題を抱えていたため、夜間労働者やクリエイティブ労働者における危機は、さらに大きくなっていった。国やコミュニティによっては、他の国よりも効果的なセーフティネットを提供しているところもある。

GNRPのこれまでの章では、クラブ、屋外スペース、インフラ、都市計画、ガバナンスといった場所や概念を扱ってきたが、本章ではナイトライフに従事する人々について扱う。本章では、ナイトライフの労働者の現在のニーズ、パンデミックの間に彼らが直面している障害、短期的な救済のためのツール、そしてこれらの労働者に緊急のリソースを提供しようとする際の課題について概説している。さらに、労働者に向けて、より多くの安全・繁栄・尊厳を提供する持続可能なナイトタイムエコノミーを生み出すであろう改革のための提言を行う。これらは、政府、夜間産業、またはその他の主体に向けられている。

01 INTRODUCTION

はじめに

本書は以下のセクションに分かれている。

1. ナイトライフ・ワーカーとは？
2. 現在のニーズ：ナイトライフ・
3. ナイトライフ・ワーカーのニーズに応えるための課題
4. 提言・ケーススタディー紹介
 - a. 短期的な解決策
 - b. 持続可能な解決策

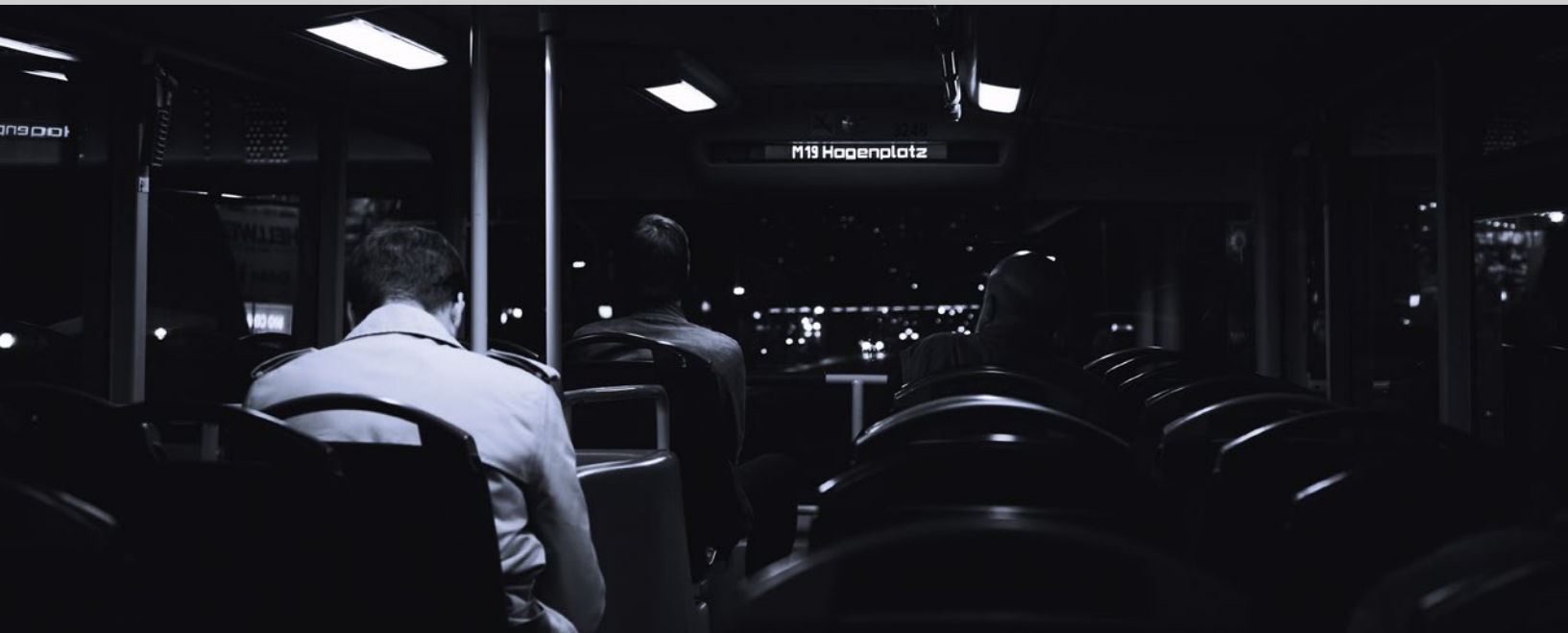


PHOTO: MARCO LASTELLA

私は生き延びるために、
プラスチックボトルを拾っている。

2月から今までで私は約7つ仕事を失った。
そのせいでお金がない。...何千ユーロもの。

毎月の収入が瞬く間に消えてしまうことは、控えめに言っても辛かった。

本当に、本当に、
私（と息子）のための資金援助が必要。

わたしたちが仕事が都市の文化を象徴していたと
しても、一番助けが必要な今では全く目を向けて
くれない。呼吸もできていない状況にある。

土地所有者からのとてつもない圧力、ストレスと苛立ち、
自分と家族を養うことができなく援助を頼りにしていることに対する
フラストレーション。
次の食事にもありつけないかもしれない。

TALENT BOOKER **MUSICIANS** SOUND ENGINEERS
DJS **PARKING ATTENDANTS** SEX WORKERS
CARPENTERS **LIGHTING TECHS** GENERAL MANAGERS
STAGEHANDS **INTERNS** STYLISTS PHOTOGRAPHERS
GRAPHIC DESIGNERS **BARTENDERS** SERVERS
USHERS PRODUCTION MANAGERS PUBLICISTS
CHOREOGRAPHERS **PUBLIC RELATIONS**
BACKLINE TECHNICIANS **SECURITY STAFF**
ACCOUNTANTS **CATERERS** SANITATION STAFF
DANCERS **PROMOTERS** **SERVERS** DRIVERS
RIDE SHARE DRIVERS **TRANSIT WORKERS** BARBACKS
CHEFS **RUNNERS** SINGERS FOOD TRUCK OWNERS
HAIRDRESSERS **AUDIO TECHNICIANS**

ナイトライフ・ワーカーとは？

この章では、コンサートホール、ナイトクラブ、バー、映画館などでの、主にナイトタイムエコノミーにおけるクリエイティブ・セクターに焦点を当てている。また、従来はクリエイティブとは見なされていないこのセクターを支える職業も含む。隣のページには夜間の経済活動において、ナイトライフを機能させるための数多くの職業のうちのいくつかをリストアップしている。

ナイトタイムエコノミーにおける関係労働者を含む、ナイトライフの従事者はそれ自体がニッチではなく、より大きな経済の重要な一部であるということで指摘をすることを目的とし、ナイトライフとクリエイティブ産業を検討するためのより大きなレンズとして、夜の生活と夜の経済に新たに焦点を当てる。

ナイトライフ・クリエイティブ産業は、多くの地域、特に世界的に文化的に知られている地域において、経済活動の重要な一部である。夜間労働者の内訳（午後6時～午前6時）を見ると、グレーター・ロンドンの530万人の労働者のうち、160万人が夜間に働いており、文化・レジャー産業の10分の1を占めていると推定されている。外国生まれの労働者に依存している産業のデータは十分ではないが、15.7%がレクリエーション活動（昼夜を問わず）で働いているとされている。(Fernandez- Reino et al. (Fernandez- Reino et al, 2020)

ナイトライフに関わる労働者は、このパンデミックの前から脆弱であったといえる。彼らはしばしば「見られていない」のである。社会の他の人々から物理的に見られていない、経済調査で評価されていない、市民社会の代表ではない、そして、仕事や市民権で文書化されていないなど、クリエイティブな仕事は本質的に非常に不安定であることが多く、10年の時間軸で見た際の離職率は50%を超えている。

文化産業、特にナイトタイムエコノミーにおいては、生産者と消費者の間に永続的な不公平が存在することは、十分に裏付けされてきた。社会的に排除され、差別されてきた多くのグループが、ナイトライフ文化を通じて生計を立てる手段を見つけてきた。有色人種の人々やLGBTQIA+のコミュニティは、今日私たちが知っているようなナイトライフ文化を大きく生み出し、形作ってきた。

それにもかかわらず、ナイトライフに「避難場所」を求めた人種・性的マイノリティが感じたものと同様の社会的課題がナイトライフ経済の中にも存在している。それは、トップDJの稼ぎ頭やナイトライフの経営者のほとんどが白人、あるいは男性であることから明らかだ。

ナイトタイムエコノミーに関わる仕事の性質も、ナイトライフ・ワーカーの脆弱性を助長している。ほとんどのナイトライフ・ワーカーは正社員ではなく、「ギグ」ワーカーである。Gig Economy Data Hubは、「ギグ」労働に関するさまざまな特徴を紹介している。

02

WHO ARE THE NIGHTLIFE WORKERS?

ナイトライフ・ワーカーとは？

「ギグ」ワーク

仕事の手配	ギグワーカーは、プロジェクトベースまたは特定のタスクのために、雇用主と短期間の関わりを持つ傾向がある（フリーランス、臨時雇用、自営業、契約労働を含む）。
作業の分類	ギグワーカーは雇用主から正社員とは見なされず、分類もさまざま。多くの場合、彼らは恩恵を受けておらず、他の労働者のように給与から税金が徴収されていない。
仕事の性質	ギグワーカーは、いつ、どのように仕事をするかについてある程度の柔軟性があり、直接の監視に置かれない。

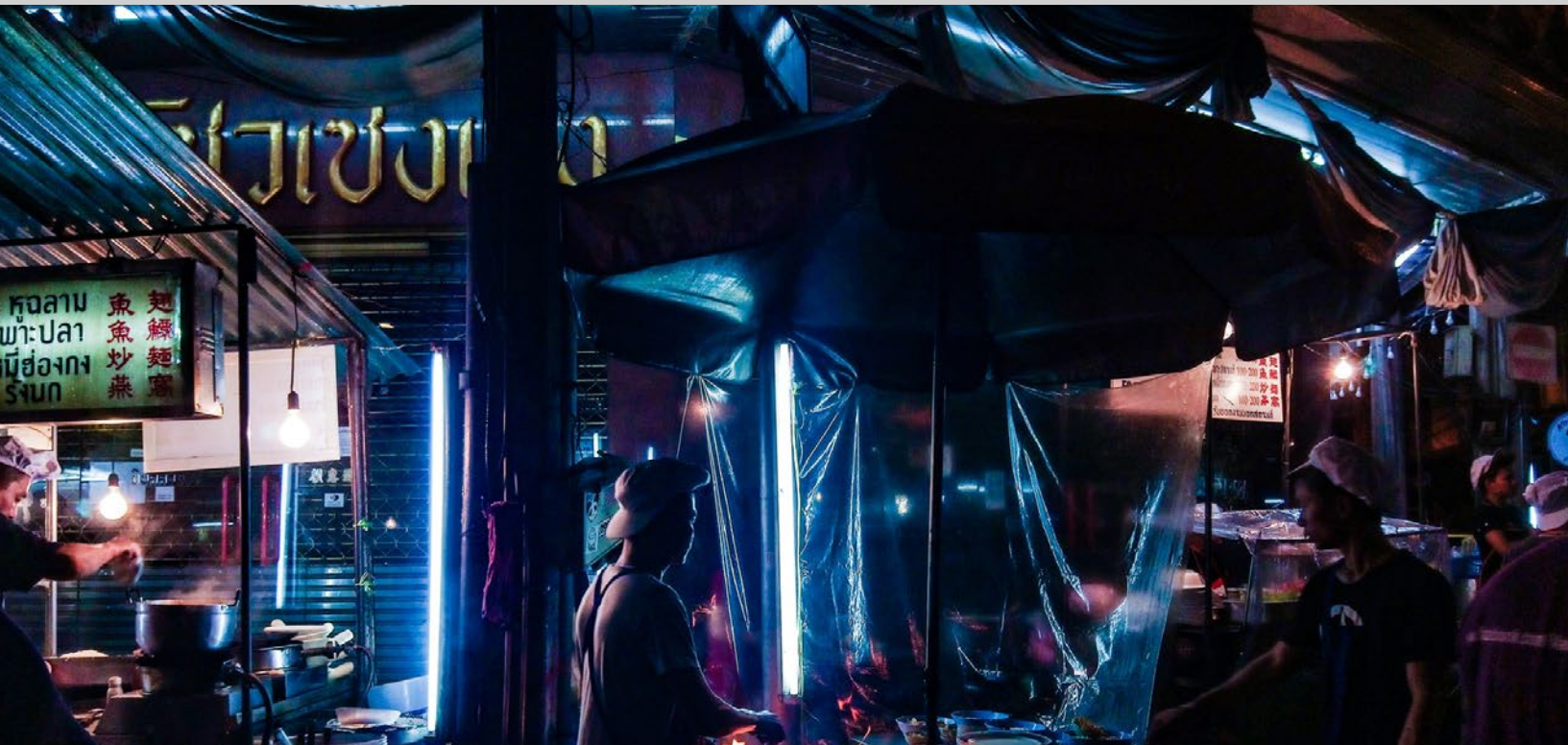


PHOTO: XVIIIZZ

ナイトライフ・ワーカーとは？

多くのナイトライフ・ワーカーは、ある意味でギグ・ワーカーと言える。その多くはシフトやパフォーマンスごとに給料が支払われ、サービスが提供されなければ給料は支払われない。フリーランサーや自営業者が多く、失業した場合、雇用主がいることを前提とした失業支援などの従来の救済措置を受けることが困難だ。この章のために実施された調査では、回答者の78%が自分自身を「自営業者」と分類した。欧州委員会の推計によると、文化産業で働く自営業者は、他の労働者の2倍にのぼる。

ナイトライフ・ワーカーの持つ、より重大かつ構造的な問題は、通常の労働時間外に働くことに内在する課題によるものだ。ナイトライフ・ワーカーは「夜間労働者」として知られるより大きなグループの一部だ。ナイトライフ・ワーカーは、建設作業員からレストランやバーの労働者、ライドシェアのドライバーまで様々である。これらの労働者は、様々な要因により、搾取を受けやすい。移民であることや、夜の時間帯に行われることによる規制監督の欠如、また、夜間労働者に対するスキルがないという偏見（彼らの仕事は、肉体労働が多い）が存在する。多くの夜間労働者はギグ・ワーカーのカテゴリーにも該当する。彼らの労働条件や人口統計学的プロファイルにより、雇用者による搾取を受けやすい立場にいるため、彼らの給料が最低賃金・生活賃金を下回って支払われていることもある。

加えて、夜間労働者は、都市における高速鉄道を簡単に利用できないため、夜間に仕事をするのが不便という課題に直面している。このことは、仕事への往復に伴う労働者の安全性にも影響する。多くの企業が彼らのライフスタイルのニーズに合わせて営業していないため、一般的に夜間労働者の選択肢は限られており、彼らは通常的生活タスクや用事を行うことにより、睡眠時間を削っている。

夜間労働者は、その労働の性質上、労働運動の大きな文脈の中では考慮されないことが多い。多くの市民イベントや運動は、彼らが眠っている日中や、仕事に向かう早晩に行われる。また、労働時間が不規則であるため、安心感を与えるバランスがとれていないこともある。夜間労働者は組織化されていないことも多いため、国が労働問題に取り組むための政策を検討する際、夜間労働者達は話題に上らないのだ。

現在のニーズ：ナイトライフ・ワーカー調査

事前の警告もなく世界中のナイトライフ会場が閉鎖され、退職金や緊急支援なしに多くの人が仕事を失った。パンデミックが予想以上に長く続くことが明らかになったため、ナイトライフ・ワーカーが計画していたギグもキャンセルされ始めた。コミュニティベースの援助は、一時的な緊急援助を提供したが、一部の政府は、経済衰退に対処する際に見落とされがちな労働者よりも、多くの労働者を対象とした大規模な援助計画に取り組んでいる。パンデミックによって失業した人々に経済的救済を提供するためにいくつかのプログラムが実施されたが、ナイトライフに従事する人々の多くがその支援を受ける資格があったか、あるいは受けたかは不明である。

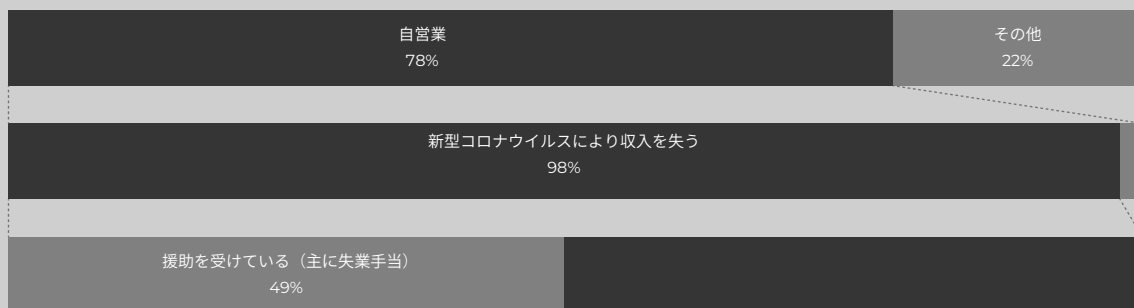
“目的がないかのように、とても落ち込んでいて、喪失感を感じます。
食卓に食べ物を置くことさえもできない。”

“私たちは、見捨てられ、忘れられた。
私は怒っていて、悲しくて、途方に暮れていて、困惑している。”

このパンデミックの間、ナイトライフの労働者が何を体験していたかを理解するために、また、パンデミックがこれらの労働者に与えた影響について学ぶために、短いアンケートを実施した。この調査は6つの異なる言語に翻訳され、世界中にオンラインで配信された。

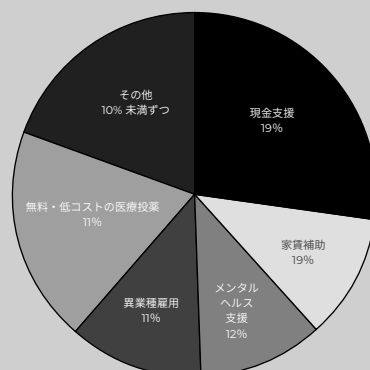
11の国と6大陸から300人以上の回答を得た。私たちのサンプルは米国とEUの対象者に偏っているが、以下の議論にある「Music In Africa Foundation」や「Music Workers Alliance」などが行った調査で補完している。

回答総数：328



- 援助を受けた人の14.8%しか「失業保険が充分だと思う」と答えていない
- 16.7%が「部分的または一時的な援助で充分」と回答
- 10%はビジネスに戻らないかもしれないと主張し、3%は戻らないと決めている
- 2%は戻るというが、能力が低下している

対象者が「最も必要としている」もの



現在のニーズ：現金と家賃の援助

調査の回答者の多くは、住宅や経済的支援の必要性を指摘しており、40%弱がこれが最も早急に必要であると答えている。回答した人々の半数以下が金融支援を受けているが、彼らの生活ニーズを満たすには充分とはいえない。一部の国では、強化された救済措置の支給があったが、数ヶ月前に期限が切れた。「Music In Africa」が実施した同様の調査では、個人の経済的損失が大きいたことが示されたが、対象者は民間の助成金が一番の希望だと答えていた。音楽労働者同盟（Music Workers Alliance）の調査によると、雇用者ベースの支援を受けているクリエイティブワーカーは少数派であることが示唆されている。

クリエイティブ産業の労働市場は、今後しばらくの間、非常に厳しいものになるかもしれない。これらのナイトライフ労働者への支援は、政府にとって多くの競合する資金需要の一つに過ぎないが、この需要は非常に長期的なものになるかもしれない。（長引く不況や、クリエイティブスペース、企業の大量閉鎖といった可能性が意味するのは、広範で迅速な PCR テストやワクチンの入手可能性を超える経済的ニーズの拡大である。）

ヘルスケアとメンタルヘルスのサポート

私たちの調査では、メンタルヘルスに関する自由回答のコメントが多く集まった。パンデミックは、ナイトライフ労働者の既存の状態を悪化させるだけだった。音楽業界におけるメンタルヘルスに関する Help Musicians (UK) の 2016 年の調査では、回答者の大多数がパニック発作、高レベルの不安、またはうつ病を報告していることがわかった。これらのメンタルヘルスに関する問題に対し、助けを求めたことがあると報告した回答者は、それほど多くはないことが明るみになった。

「ノーマル」な状況下では、ナイトライフの仕事は、起業家精神、職場内外での社会的な仲間意識、そして（アーティストにとっては）エゴ中心の自己信頼に依存していることが多かった。ナイトライフ産業における、失敗は、頻繁に起こり、その失敗は個人的なものであることが多く、セーフティネットもほとんど存在しない。このような状況が、ナイトライフで働く人たちを、すでに不安定な立場に置いていた。

大半のナイトライフ・ワーカーは、2020 年 3 月に即収入がなくなってしまう、長期的な収入を得る機会もその後すぐになくなってしまった。そこには、ナイトライフ業界の不確実性とナイトライフ・ワーカーの立ち位置のため、基本的なニーズを満たすことができないというストレスと絶望感が存在した。この業界の「シャットダウン」は孤立を生み出し、多くの回答者が孤独を感じていると回答した。Music Workers Alliance による調査では、長期的な離職に対する不安が示されている。対象の 3 分の 1 はクリエイティブな分野を離れることを検討しており、15%は経済的な理由で引っ越しをしなければならなかった。彼らの仕事の性質上、すでにリソースへのアクセスが制限されているため、必要なメンタルヘルスサポートを得るのに苦労しているようだ。

“私はすごく絶望を感じている。というのも政府のパンデミックに対する極端な管理不足が、ナイトライフとパフォーマンス・アーツを永遠に終わらせてしまったからだ。ナイトライフとパフォーマンス・アーツは私が自分自身を表現するために使っていただけでなく、精神安定剤だった。でも、今はもうなくなってしまった。”

ナイトライフは文化とビジネスという認識が必要

ナイトライフベニューやナイトライフに関わる企業が収益を生むビジネスであることは明らかだが、政府がナイトライフの文化的な意義を認めることは難しい。ナイトライフは「夜遊び」という経験を超え、様々な分野にわたる芸術と文化を含む。労働者やパトロンとしてナイトライフに参加している人たちは、しばしば政治的に無視され、法律において不当な処罰の対象となっている、社会的に疎外されたグループのメンバーである。ニューヨークで廃止されたキャバレー法や日本の風営法のように、ある種のナイトライフを犯罪化した法律の多くは、特定のグループに対する過剰な取り締まりによるものだ。

また、多くの政府がナイトライフの支援を検討する際には、道徳的な懸念もある。ドラッグやセックスが横行するシーンとしてのナイトライフの汚名は今もなお顕著である。過去 20 年の間に、「ナイトメイヤー（夜の市長）」の出現と、ナイトライフ産業を支援しようとする政府機関が世界的に発展してきたが、多くの地方自治体はナイトライフが持つ経済的な機会を拡大するよりも、ナイトライフを制限することに重点を置いてきた。このような禁止主義的なガバナンスのアプローチは、政府によるナイトライフの労働者を特別に支援しようとする意欲が少なかったためである可能性が高い。

しかし、ナイトライフを支援することは、経済的なメリットが明らかに存在する。ナイトライフは産業であり、多くの都市で経済の非常に重要な部分を占めている。多くのベニューが「小さなビジネス」で、国際的な大企業が所有しているわけではない。国際的なパフォーマーを誘致している会場でも、イベントをサポートするために地元のアーティストや制作スタッフを雇っている。ナイトライフの多くを特徴づける“small C”文化は、シンフォニー・オーケストラのような“Capital C”文化と並んで、文化的・政治的な正統性のために、またパンデミックの間の財政支援のために、重要な産業として認識されるべきだ。

夜間労働者は組織化されておらず、手を差し伸べるのが難しい

多くの都市がナイトライフの重要性を認めている一方で、政府によるナイトライフ産業やその労働者を支援するための大規模な活動はほとんど存在しない。ナイトライフ事業者は、政策に影響を与えることができる真の立法力や規制力を持たないことが多い。ナイトライフの労働者とナイトライフを支援している人々の間に明確な草の根運動がなければ、政府にロビー活動をしてでも政府内の協力者がナイトライフ・ワーカーを救済支援以外で擁護することは困難だ。しかし、ギグ・ワーカーは、社員に対しての経済的な救済措置を取ることができる企業と関わりがない。これは、自営業者や独立した請負業者とされている人たちに対しての責任を放棄する政策の結果である。

このパンデミックからナイトタイムエコノミーを立て直す際は、夜の労働者にとってより持続可能で、回復力があり、公平な環境を作り出す機会である。ナイトワークのいくつかの特徴には課題があるが、これらの懸念点を理解することで、ナイトタイムエコノミー全体の労働者の条件を改善する積極的な変化につながる可能性がある。

短期解決策

2021年1月現在、世界的なナイトライフの閉鎖からほぼ1年が経過したが、その間はナイトライフワークの収入源はほぼない。近い将来、ナイトライフの仕事の損失を補うためには、代替のビジネスモデルへの「ピボット」が有効だ。

直接的な金銭による補助は、ナイトライフの労働者にとっては、短期的な救済の最良の形である。これにより、労働者は生活状況を安定させ、基本的なニーズに対応し、うまくいけば精神的な幸福度を向上させられるが、これは労働者を支援する、たくさんの中の一つだ。その他の助成方法としては、共済やカルチュラルプロデューサーのための新しい収入モデルなどがある。以下のセクションでは、政府、個人、コミュニティが利用できる創造的で有効な短期解決策の例とケーススタディー（事例）を紹介する。

- 一般労働者への緊急支援
- アーティストのための緊急助成金
- 相互扶助
- 政府の援助へのアクセス（CaseStudy：CARES for Music）
- アーティストへの直接後援
- クリエイティブワーカーに対する政府の救済（CaseStudy：南部アフリカの経験）



PHOTO: BANTERSNAP

一般労働者のための緊急時の救済

救援活動は、国ごとでその数やデザインも様々である。ナイトライフ労働者とその雇用者の間には複雑な関係があるため、特定の援助がナイトライフ・ワーカーに届かない可能性もある。OECDは、自営業者やグレー・エコノミーの労働者を見落とさないように、救済プログラムの資格基準を単純化することを推奨している。ドイツでは、パンデミックの結果として一時的に仕事を失ったことによる収入の損失に対して、一部の金銭的補償を行っている。労働者は、毎月の総給与の10%以上の損失を示すことができれば、援助を受ける資格がある。この手当は2020年3月1日に遡って支給され、失われた収入の最大60%を12ヶ月間カバーするものである。

芸術家のための緊急助成金

ニュージーランドは、インディペンデント・アーティスト、アート・プラクティショナー、あらゆる分野の芸術団体のメンバーを対象とした緊急救済助成金基金に1600万ドル（NZ）を配分した。これは、2020年3月から6月までの間に失われた収入に対する助成金を提供するものである。7月には第二段階として、追加で2500万ドルをアートコミュニティに投資する12ヶ月間の計画が発表された。サンフランシスコ市も同様のプログラムを運営しており、250万ドル（米国）をアーティストや団体に提供している。オーストリア連邦芸術・文化・市民サービス・スポーツ省は、1億1,000万ユーロのシード・グラントと2,000ユーロのロックダウン「ボーナス」、アーティストのための既存の社会保険基金への注入など、セクター別の資金提供を行っている。



PHOTO: KRYS AMON

相互扶助

政府の対応が不十分であることが多いため、相互扶助、資源とサービスの共有が、パンデミックへの重要な緊急対応として注目されている。多くのコミュニティと同様にナイトライフコミュニティも、食料、資金、その他のサービスを脆弱な人々に提供するために組織化されている。ベニューでは、スタッフへの金融援助ためにクラウドファンディングを実施した。ナイトライフ・ワーカーは一体となって、パンデミックで経済的に影響を受けた同輩だけでなく、パンデミックで壊滅的な被害を受けたグループに支援を提供するために、他の組織に対する追加の資金調達や、寄付を行なった。資源や支援を直接的に提供できない人々も、この情報を他の人々と共有し、資金調達ネットワークの範囲を広げることに協力した。

United We Stream Asia (UWSA) は、世界的な相互扶助ストリーミング運動 United We Stream に関する取組であり、資金調達プラットフォームをつくるためのオープンソースモデルを提供している。UWSA は 11 カ国 16 都市で 150 人以上のアーティストをフィーチャーした 40 以上のストリーミングイベントを開催し、数百万のストリーム配信再生を生み出し、参加会場やその従業員、イベントに雇用されているタレントや技術スタッフのために 5 桁の寄付金を生み出した。バンコクを拠点とする UWSA のオーガナイザーのフォン・リー氏によると、最も重要な影響は、このイベントが生み出した認知度、コミュニティの結束、政治的な正統性だという。ベトナムでは、州の新聞が電子音楽について報道したのは初めてのことであった。タイでは、夏の間ウイルスの感染レベルが非常に低かったため、シャットダウン中に構築された結束力は、クラブが再開した際に地元のアーティスト中心のステージを提供した。フォン氏は、「この 4 ヶ月間の間に、前 4 年間でシーンが成し遂げた成長を上回ったように感じる」と表現している。

NYC ナイトライフ・ユナイテッド (NNU) は、パンデミックへの対応とパンデミックによるナイトライフの停止によって最も影響を受けた人々のために利用可能な金融支援が不足していることを受け、組成された。NNU の使命は、より強く、より健康的で、より創造的なコミュニティとして再オープンすることを目的に、ニューヨーク市の公平で豊かなナイトライフ文化をつくること。BIPOC と LGBTQIA+ のコミュニティに安全な空間を提供する BIPOC が所有し、主導するビジネスの支援に主眼を置いており、この非営利組織は、地元の小規模な会場、アーティストマネジメント会社、財団の連合によって設立された。彼らはバーチャルな資金調達イベントやクラウドファンディング、直接の寄付を利用して活動資金を調達しており、その中には小規模な会場や個人への無制限の助成金や食料配給を行う緊急資金も含まれている。

Local Legends は、相互扶助による資金調達を目指す独立した会場や団体に、デジタルインフラ、専門的なサポート、マーケティングツールキットを提供するために設計された共同のクラウドファンディングイニシアチブだ。コジモ財団、TicketSwap、GoFundMe の共同プロジェクトで、地元のパトロンとのつながりに焦点を当てたクラウドファンディングキャンペーンを運営するためのテンプレートを提供している。手数料や最低資金調達額は無料で、すぐにお金を引き出すことができる。2020 年 12 月現在、70 以上の会場で 20 万ユーロ以上の資金を調達している。

CARES FOR MUSIC (US)

：創造的なコミュニティが、政府の救済にアクセスするための力を与える



PHOTO: EUNICE MAURICE

2020年3月下旬、米国議会は、2兆ドルの経済救済パッケージである「Coronavirus Aid, Relief, and Economic Security (CARES) Act」を可決した。2020年3月に1500億ドルの資金が地方自治体や州政府に分配されたが、その用途についてはほとんどガイダンスがないままであった。Sound Diplomacy と gener8tor は、データに基づいたキャンペーンを行うことで、この資金の一部を音楽と文化産業に割り当てることができると考えた。そして、音楽、エンターテインメント、文化産業が救済を受けられるための無料で実用的なガイドである「CARES for Music Toolkit」を作成した。このツールキットには、CARES 法ガイドラインの概要、手順を詳細に示したガイド、地域社会における音楽の経済的影響の証拠とデータ、既存の CARES プログラムのケーススタディ・データなどが含まれている。

2020年8月の時点で、全米での CARES 資金の平均使用率は19%にとどまっている。全米インディペンデント会場協会、音楽ビジネス協会、全米インディペンデント・タレント協会、レコーディング・アカデミーなどは、このツールキットを芸術文化機関や政府と共有するために協力している。

このような活動により、オクラホマ州タルサのプレイ・タルサ・ミュージックをはじめ、いくつかの成功例が出始めている。テキサス州フォートワースでは、このツールキットのおかげで、会場とその従業員の収入は、COVID-19の災害前に失われた平均月収の3倍にまで回復した。

CARES FOR MUSIC (US)

：創造的なコミュニティが、政府の救済にアクセスするための力を与える

アーティストへの直接支援（DIRECT-TO-ARTIST PATRONAGE）

アーティストとファンとの関係は、ライブパフォーマンスに代わって、ストリーミング、相互扶助、サブスクリプション、セールスが主な収入源となり、パンデミックの間の生命線となっている。ここ数十年の音楽市場の再編成により、ストリーミングサービスが音楽の消費の主流となっていた。パンデミックの間、Spotify の株価は急騰し、この時期のデジタルメディアの消費の重要性が反映されたい。多くの人にとって、ストリーミングによる収入（1回の再生あたり数セント）は、かつてライブパフォーマンスで稼いだお金の代わりにはなりえない。アーティストにとって、彼らに直接的な収入を得る機会を増やすことができるより古典的なアーティストとファンの関係をつくる他のモデルへの転向も必要だ。

直接的な収益を増やすため、Bandcamp、Patreon、Mixcloud Live の3つのモデルに関する詳細を、「持続可能な解決策」のセクションで説明している。

アーティストとファンの直接的な関係から生まれた短期的なパトロンシップモデルが "Bandcamp Fridays" だ。インターネット上の音楽販売プラットフォームである Bandcamp は、より公平なモデルで、アーティストや独立系レコードレーベルとパトロンが直接つながることを目的に作られた。収益の 80-85% がアーティストやレーベルに支払われ、Bandcamp は残りの処理手数料を受け取っている。同サイトは 2007 年に誕生し、2012 年からはプロテブルとなっている。2020 年 3 月には、世界的なシャットダウンへの対応として、月に 1 度の金曜日に、その日に稼いだすべての収益（処理手数料を差し引いた額）をアーティストやレーベルが受け取り、Bandcamp はその日の収益を放棄する「Bandcamp Friday」を開始した。Bandcamp は最近、2020 年 3 月から 12 月までの 9 回の Bandcamp Fridays で、4,000 万ドルの収益を得て、80 万人が参加したと報告している。また、Bandcamp Fridays は 2021 年も継続すると発表し、Bandcamp Friday の開催日を 2021 年 2 月から 5 月までとしている。また、同サイトは先日、アーティストがチケット付きのライブ配信を設定できるオンライン・ストリーミング・プラットフォーム「Bandcamp Live」を立ち上げ、グッズ販売やチャット・サポートを統合して支援している。

クリエイティブワーカーを対象とした政府の優遇措置

南アフリカにおける救援物資の配給は、クリエイティブワーカーや夜間労働者に具体的な救援物資を提供するために政府が取るべき手段の実例を示している。まず、これらの労働者が誰なのか、何人いるのか、彼らの損失とニーズの本質は何なのかを理解しなければならない。私たちは、南アフリカの芸術文化救済プログラムの物語を、一国政府の支援の例としてここに記録する。



PHOTO: SIPHO SITHOLE

民主化以来 26 年間、南アフリカの活気あるナイトライフは、肌の色や信条に関係なく、すべての人のものだった。COVID-19 におけるアパルトヘイト時代の人種的な夜間外出禁止令とは異なり、すべての人に対して「Stay home(家にいてください)」という明確なメッセージとともに、ロックダウンが行われた。突如として、南アフリカの人たちは、特権を持つ者と疎外された者の間でも、黒人と白人の間でも差別されることのない、人間の悲劇の現実に直面しなければならなかった。

COVID-19 によるロックダウンに陥る前、クラブは大都市の至るところに広がっており、ナイトライフに関する事業を展開する起業家は、それをでマネタイズできていた。

食べ物やタバコの売り子がクラブの外に屋台を出し、夕食をとれなかった人や、疲れすぎて朝食を食べるのに起きられなかった人に軽い食事を、タバコ一箱を買う余裕がなかった人のために一本の煙草を売っていた。ホームレスから駐車場の警備員になった人たちでさえも、自動車の駐車スペースの所有権を獲得し、夜間の車の安全を少額の料金で見守っていた。

ナイトライフにはDJ、コメディアン、バンド、クラブやレストランのオーナー、バウンサー、バーのアテンダント、ウェイターやウェイトレス、会場の清掃員、夜の送迎サービスに至るまで、誰もが夜に関わっていた。

COVID-19 のロックダウンと夜間外出禁止令は、活気あるナイトライフにブレーキをかけ、「踊る自由」を背景に構築された南アフリカのナイトタイムエコノミーに影響を与えた。どこにも助けを求めて行くところがないので、政府に助けを求めようとしたが、そこには「誰が支援を受ける資格を持ち、そうでないのか」という疑問があった。

南アフリカの舞台芸術における COVID-19 の影響

政府による国家非常事態状態の宣言は、インフォーマルセクターの人々に壊滅的な影響を与えた。2020年3月25日にアコムエージェンシーによって行われたスナップ調査によると、約580万米ドルの所得に匹敵する損失があり、3ヶ月のロックダウンにより11,112の雇用が失われると推定された。以下は、その結果の一部を紹介する。

- 回答数：171
- 1週間のロックダウンでキャンセルされたショー 2,452 件（南アフリカでは 1,948 件）
- 損益通算+費用（概算）：700 万ドル（米国）、480 万ドル（南ア）
- 産業界の総従業員数：11,112 名
- アーティスト（3,472 人）
- 駅・人員（1,583 人）
- キュレーター、ランナー、プロジェクトマネージャーを含むサポートスタッフ（2,947 人）
- 照明、エンジニア、グラフィックを含む技術者（1,662 人）
- 警備・舞台・音響を含むサービス提供者（1,448 人）

南アフリカ文化観測所（SACO）の調査によると、この産業の GDP への貢献度は 42 億ドル（1.7%）と評価されており、舞台芸術部門（主に音楽）の貢献度は 2 億 8700 万ドル、全雇用の 110 万人（7%）となっていた。この報告書によると、パフォーマンスと祝賀会がパンデミックの影響を最も受けることになり、調査対象の 65%を占めるフリーランサーを中心に、約 28 億ルピー（1 億 6,730 万米ドル）の GDP が減少すると推測された。

アフリカ大陸における情報源として最大リソースである Music in Africa も、インパクト調査を実施した。調査対象となった個人の 64%、企業の 70%が、ロックダウンを乗り切るための他の収入源がなかったことがわかった。個人と企業どちらも（約 87%）、何らかの救済を必要としていた（Music in Africa, 2020）。雇用保障も失業給付も健康保険もないギグエコノミーの中で、市民が政府に「私たちはどうなるのだろうか」と問いかけた。

政府の救済案

2020年3月25日、スポーツ・芸術・文化大臣（DSAC）は、スポーツを含む文化・クリエイティブ産業のための COVID-19 救済資金として 1 億 5,000 万ルピー（約 890 万米ドル）を確保すると発表した。

政府は以下の救済措置を提案した（米ドルの数字は概算）。

- 文化的・創造的な労働者、スポーツ選手、スポーツ関係者への一回限りの支払いで、一人当たり最大 1,200 米ドルを上限とする。
- 承認されたプロジェクト 1 件につき最大 4,400 米ドルのバーチャルストリーミング用デジタルコンテンツへの資金を提供する。
- 芸術・文化・スポーツのレジェンドには、一人当たり最高 600 米ドルの救済を提供する。（レジェンドプログラムは、70 歳以上の芸術・スポーツ従事者の貢献を認める政府のイニシアチブである。）

南アフリカの経験：When The Night Fell

政府の救済措置の申請は 5,322 件あり、4,602 件の業界から選ばれた審査員によって資金提供のために推薦された。オンラインデジタルプロポーザル（DJ ロックダウンパーティー、ヒップホップロックダウンサイファー、オンラインコメディショーなどの仮想イベント）への申請は 638 件あった。

救済措置の救済	受理された申請	全体における割合
芸術&文化	4,106	79.0%
オンライン / デジタル提言	414	9.6%
スポーツ / アスリート	337	7.8%
芸術、文化&スポーツレジェンド	150	3.5%



PHOTO: SIPHO SITHOLE

挑戦と経験

南アフリカには、文化的・クリエイティブセクターのために蓄積されてきた情報が少ない。歴史的な不均衡が続いていることも課題であり、英語のみの申請フォーマットでは、支援を必要とする人たちの多くが申請書を提出することができなかった。また、申請書の作成も非常に手間がかかり、複雑な作業となっていたり、IT 部門の容量の問題など、インフラの課題も存在した。

作られたサブシステム

支援率の中には、金銭的な救済だけでなく、バーチャル領域でイノベーションを起こし、収入を生み出すためのリソースを提供するものも存在した。ConcertsSA による調査によると、パンデミックのずっと前からライブストリーミングを始めたアーリーアダプターから、COVID-19 のロックダウン制限に対応した新規プレイヤーまで、多くのストリーミングベンチャーが生まれてきている。調査対象となった企業のうち、38% のストリーミングベンチャーは、COVID-19 の制限に直接反応した最近の取り組みだ。ロックダウン中は、自宅コンサートのバーチャルストリーミングだけでなく、コメディアンを含む DJ パーティやヒップホップのサイファーが南アフリカ人を楽しませていた。コンテンツ制作者は、必要とされる収入を得るための新しい方法に適応していた。

追加の緩和および刺激策

8 月には、継続的なニーズがあったため、DSAC は芸術分野に対する第二段階の救済を発表し、約 11,666 人に約 7770 万リアル（490 万米ドル）の恩恵を与えた。総額は 1 億 4,540 万リアル（840 万 US ドル）に上る。

2020 年 10 月 30 日、大統領はさらに、大統領雇用刺激策（PESP）を発表した。これは、スポーツを含む芸術と文化における雇用を維持し、創出するための取り組みで、この目的のために割り当てられた合計金額は、45.7 百万米ドルだった。PESP は、政府によるさらなる試みで、政府はナイトタイムエコノミーを含むバリューチェーン全体で雇用と協力の機会を創出する野心的な提案を募集することにより、クリエイティブエコノミーに予算を投資した。



PHOTO: SIPHO SITHOLE

短期的な解決策はパンデミックの間には役立つが、以前の状態に戻ることはないことは明らかだ。夜間労働者とナイトライフ産業全般を立て直し繁栄させるには、以前とは異なる政策やアイデアが実施されなければならない。ナイトライフ・ワーカーが大切にされ、保護される環境をつくり、労働者が搾取されることを許してきた慣行を撤廃しなければならない。ナイトライフ・ワーカーは、自分自身のために組織化して主張する力をもつべきであり、私たちはこのような努力を支援しなければならない。パンデミック後のナイトライフは、将来の危機にも耐える、より公平で持続可能なモデルに向かわなければならない。

民間も公共も、このパンデミックの間に経済的損失を経験しており、ナイトライフを支援するためのパートナーシップを構築することは、ナイトライフ経済の再起動を支援し、ナイトライフの労働者により公平なアクセスを提供するための良いモデルになるかもしれない。

● 政府

- ・ナイトライフと夜間労働者の市民参加と測定方法の改善
- ・社会的セーフティネットの改善

● クリエイティブコミュニティ

- ・クリエイティブ産業の民間支援を促進するためのインフラ整備（事例：コジモ財団）
- ・直接的なアーティスト・パトロン関係の拡大
- ・持続可能なネットワークと労働者の力の構築

政府に向けての提言

ナイトライフと夜間労働者の市民参加と評価の向上

多くの地域におけるナイトライフの文化的・経済的な重要性は十分に文書化されているが、政策決定においては、労働者はしばしば無視され、目に見えない存在である。その決定は、ナイトライフ・ワーカーに悪影響を与えるか、彼／彼女らを完全に排除するかのどちらかである。賃金格差があり、女性、LGBTQIA+、有色人種の移民コミュニティは、ナイトタイムエコノミー全体で搾取の対象となりやすい。

私たちが思うに、夜間労働者（ナイトライフ・ワーカーを含む）の労働条件は、UN2030 アジェンダや持続可能な開発目標（SDGs）、特にディーセントワーク（働きがいのある人間らしい仕事）と経済成長に関する持続可能な開発目標の8番目である「ディーセント」の条件を下回っている。

労働問題に対処する政策を決定する際には、昼間の労働と夜間の労働の両方が、都市の持続可能な運営にとっては重要である。夜間労働者、組合員、社会学者、政策立案者、研究者、規制当局、移民組織の間で、交錯する問題に対処するためのコミュニケーションが求められる。これらの問題の中には、移民であること、女性であること、低学歴であること、不安定な労働契約であることなどが含まれる。

労働統計や分析のためのデータ収集は、政策の情報提供に役立つため、夜間労働者や労働に該当する業種を含めなければならない。夜間労働の「目に見えない」性質から、これは特に難しいことであるが、政策立案には不可欠である。

ナイトライフ・ワーカーのための社会的セーフティネットの改善

多くの国では、パンデミックで離職した労働者が雇用状況に関係なく、経済的・身体的な幸福を維持できるような、強固な失業制度や普遍的な医療制度がない。堅牢なセーフティネットが、ギグワークに内在するリスクから労働者を守るために必要だと考えられる。

ユニバーサルベーシックインカム

ユニバーサル・ベーシック・インカム（UBI）は、世界各国で提唱されてきた政府のプログラムであり、すべての成人市民に対して、労働条件やその他の手段を問わず、定期的な支払いを保証するものである。技術の進歩により仕事の性質が変化し、世界で最も裕福な国でも貧困が続いている中で、ユニバーサル・ベーシック・インカムは、市民が基本的なニーズ（食料、住宅など）を満たすのを助け、経済的な障壁やその他の障壁のために以前は手の届かなかった試みに人々が挑戦できる可能性を生み出す。ユニバーサルベーシックインカムはまた、すべての市民に同じ支払いを提供することで、「公平な競争」を実現し、過小評価されているグループの貧困を緩和できるため、賃金や雇用の不平等を経験しているグループを支援することができる。

失業支援の拡大

一部の政府はパンデミックの間、ギグワーカーが失業支援を受けられるように一時的にルールを変更したが、これは恒久的に実施する必要がある。ギグ・ワークの本質は不安定性、つまり"実存的、財政的、社会的不安"だ。ギグ・ワークの不安定性が完全に取り除かれない限り、この不安定さはナイトライフの仕事の特徴として続くだろう。

労働改革

政府は、ライドシェアドライバーをライドシェア会社の従業員ではなく自営業者として分類し、既存の労働法の下での権利を制限するような政策を促進するなど、ギグ・ワーク構造の搾取的な利用を制限するように働かなければならない。また、これらの政策が負担にならないようにしなければならなく、時間のかかる官僚的なプロセスに労働者を巻き込む必要がある。ナイトライフ・ワーカーは、これらの政策に関する対話に居合わせる必要がある。

コミュニティのためのソリューション

クリエイティブ産業のために個人的なパトロン活動をやりやすくするためのインフラストラクチャーの構築が必要だ。



PHOTO: MERLIJN POOLMAN

オランダの都市フローニンゲンは、文化、創造性、革新的なビジネス精神に溢れている街だ。この街はナイトライフで有名で、ヨーロッパで最も若年層の人口が多い街の一つだ。COVID-19の流行以前から、会場やイベント主催者、文化団体への資金提供は不十分で一貫性がなかった。2019年に設立されたCOSIMO財団は、文化・クリエイティブセクターと企業とのより強力なコラボレーションをもたらす、ポジティブなインパクトを生み出すために設立された機関だ。パンデミックは、都市の文化・クリエイティブセクターのための資金調達のニーズの大きさと、企業が社会的インパクトを生み出すチャンスを浮き彫りにした。ナイトクラブは強制的な閉店により、すべての収益を失った。オランダのING銀行の報告書によると、ナイトライフ部門全体で約40%の損失が発生すると予測されている。

COSIMO財団は、企業がクリエイティブなプロジェクトを効率的に見つけ、税金控除の対象となる寄付金で支援することを可能にする「マッチメーカー」モデルを実施しており、多くの国の税法がこれをサポートしている。

COSIMOモデルの仕組みを簡単に説明すると、以下のようになる。

クリエイティブセクターの「X」は、「サステイナブルな装飾と地元のDJのみが参加するテクノパーティー」というプロジェクトを5,000ユーロの予算で申請。コジモ財団は、データベースに登録されている企業の中から、持続可能なプロジェクトを支援することに興味を示した企業にアプローチする。そして、資金の有無を確認し双方の合意が得られれば、マッチングの取引を進める。その後、企業から資金を受け取りプロジェクト先に送金し、法的な手続きを行うといった流れだ。

このCOSIMOモデルは、EUのほとんどの国や地域で適用することができ、法律や税額控除の分析を進めれば、このモデルを世界中の国で再現することも可能だ。同財団は現在オランダで活動しており、2021年半ばにはEU圏外での活動を開始する予定だ。もしこのCOSIMOモデルが、世界中のナイトライフの代表者のための効率的な「緊急援助」として見られるとすれば、その国際的な拡大には時間がかからないだろう。

アーティストとパトロンとの直接的な関係を広げる

音楽市場がライブパフォーマンスによる収益を重視する方向に動いたことで、クリエイターは脆弱になってしまった。パンデミックは、このビジネスモデルの不安定な性質を露呈した。アーティストとパトロンとの持続的な関係の構築は、パンデミックの影響を受けたクリエイターを助け、今後はより持続可能な収入構築を可能にする可能性がある。

Patreon

Patreon は、会員制の定額制インターネットプラットフォームで、クリエイターがファンと直接関わることができ、そのファンはプラットフォームを通じて配信される限定コンテンツにお金を払えるシステムだ。クリエイターはコンテンツ配信のパラメーターを設定し、ファンは個々のコンテンツの購読または支払いを行う。このモデルでは、クリエイターはより一貫性のある持続可能な収益源を持てるだけでなく、最も熱心なファンと直接コンタクトをとれる。パンデミックの影響により、多くのクリエイターが収入源を広げるためにこのプラットフォームを利用しはじめている。世界的にロックダウンが始まった 2020 年 3 月の最初の 3 週間の間に、3 万人の新規クリエイターが Patreon に参加した。

Mix Cloud Drive

シャットダウンが広がったことで、技術力のある DJ は様々なプラットフォームでのストリーミングによるバーチャルイベントに移行した。一方、ソーシャルメディアプラットフォームに存在する著作権侵害やライセンスの問題により、DJ が音楽を演奏することができなくなっている。レコードレーベルや音楽出版社とライセンス契約を長年結んでいるストリーミングサイトである Mixcloud は、DJ が主催するミックスショーやライブオーディオストリームを補完するために、動画ストリーミングプラットフォームである Mixcloud Live を開始した。Mixcloud Live では、クリエイターは DJ セットの録音済みビデオをアップロードしたり、ライブ DJ セットをパフォーマンスできる。このプラットフォームでは、有料のサブスクリプションが必要となり、法外な費用がかかる場合がある。また、安定したインターネットへのアクセス、DJ のセットアップ、十分なオーディオとビデオの出力が必要な場合は、DJ がライブストリームイベントに参加できないこともある。Mixcloud 上の DJ には直接的な収益源はないものの、ライブや対面でのイベントを実施できない間も、オーディエンスを増やすために有効だ。

Bandcamp

Bandcamp Fridays のイベント（前注）は、Bandcamp のプラットフォームによる、継続的なアーティスト・パトロンとの関係を築くためのよくできたモデルと、アーティストフレンドリーな財務モデルがあるため、直接的なパトロネージュのための良いツールとなりえるということが明らかになった。このサイトは（ストリーミングではなく）販売を重視しており、アーティストやレーベルは価格を設定でき、マージンは低い（15-20%）。サイトのパトロン購読モデルとメンバーシップ機能により、アーティストやレーベルとファンとの継続的なコンタクトを可能にする。

持続可能なネットワークとワーカーパワーの構築

ナイトメイヤーや政府のナイトライフ団体、地元の労働組織など、既存のリソースを通じた連携を構築するチャンスがある。これらの組織の外でも、ナイトライフ・ワーカーは安全に組織化して主張する方法を探さなければならない。



パンデミックはナイトライフに従事する人々と、彼らが働くスペースに大きな打撃を与えた。集客に依存して収益を上げているクリエイティブスペースは、パンデミックの中で「最初にクローズし、最後にオープンする」ものであり、NIVA（アメリカ）やNTIA（イギリス）のような会場協会の推計によると、大多数のスペースは政府の援助がなければパンデミックに耐えられないとのこと。また、そのような支援があるかどうかは非常に不透明である。

現在、そしてパンデミックが発生していない時期に、労働者、ビジネス、創造的なスペースのニーズに適切に対応するためには、ガバナンスが鍵となる。クリエイティブなコミュニティやクリエイティブビジネスへの補助金や支援の政治的な優先順位が課題だ。

パンデミックが終わる頃には、夜間経済をすぐに "再始動" するためのスペースがもう残っていないかもしれない。クリエイティブスペースは、都市の中で最も不安定な土地利用の一つであり、流動的で競争の激しい不動産環境により危機的な状況にあることが多い。既存の空間の保全と新たな空間の創造は、政府がナイトタイム（夜間）を正當にガバナンスした上でコミットしたガバナンスのための場合にのみ可能となる。

政府は利害関係者と積極的に関わりを持ち、政策を通じてクリエイティブスペースの保護を優先させなければならない。私が2020年の夏に実施した米国のナイトタイムエコノミー担当者によるシナリオ計画演習では、参加者はパンデミック後の状況として、ナイトライフで知られる商業地域は空室率が高く、アパートやオフィスを優先する不動産利権者のターゲットとなる可能性が高いことを認識した。クリエイティブスペースは新しい場所を見つけることができず、LGBTQIA+ やマイノリティのナイトライフの "飛び地" は失われていくだろう。一方で、ゾーニングコード（土地利用規制）は、騒音や迷惑行為を発生させる可能性が高いと考えている施設に近隣住民が反対することが多く、新しいスペースを作ることの障害となっている。

おそらく最も重要なことは、夜間ガバナンスは長い間、消費を重視してきたことだ。だが、これは変わらなければならない。経済促進、観光振興、都市開発、その他の経済開発戦略は、サービス業やクリエイティブワーカー、疎外されたグループのための雇用福祉、安全、そして機会を考慮することを放置している。

ナイトライフは誰かの生計を立てるための手段であるだけでなく、多くの人にとって文化的、社会的なライフラインでもある。ナイトライフは長い間、社会で虐げられたり差別されたりしているグループのための拠り所となってきた。さまざまな音楽のジャンルや文化がナイトライフから生まれただけでなく、構造的な不平等のために制限されている多くの人々の社会的な動きや結束をもたらし、機会を生み出してきたのだ。

しかし、ナイトライフはユートピアではなく、世界の多くの地域で見られるような構造的な人種差別、性差別、外国人恐怖症等の差別がないわけではない。ナイトライフで最も人気のあるパフォーマーや稼ぎ頭をリストアップしたメディアの報道は、世界中の様々なジャンルやシーンで創作活動を行っている人々の真の姿を反映しているとは言えない。パンデミックは、この業界の真の創造者である最も脆弱な人々に不平等な扱いをもたらし、私たちはより良い方法を取らなければならない。

必要最低限の生活を送るために、(個人が) 価値を証明しなければいけないことはない。政府は、ナイトライフ・ワーカーがいつでも、特に危機的な状況下でも自分たちの生活を維持できるように、保護・支援する努力をしなければならない。ナイトライフ・ワーカーは、組織化と擁護活動を通じて、業界をより公平なモデルへと移行させるために、文化労働者として、また都市の活力に大きく貢献している者として、自分たちの力を認識しなければならない。

ナイトライフを形作り、サポートしている人たちに対する不平等をこれ以上無視することはできない。また、大幅な制度的変化なしにナイトタイムエコノミーを再開することはできない。よりレジリエンス(回復力)のあるナイトタイムエコノミーを構築することは、コラボレーションと創造によって生み出され、すべての人のための空間としての原点を守りながら、より包括的な場をつくっていくことになるだろう。

Austrian Arts and Culture Grants

<https://www.culturalpolicies.net/covid-19/country-reports/austria/>

Backline - Mental Health Support for Musicians

<https://backline.care/about>

Bandcamp Fridays

<https://daily.bandcamp.com/features/bandcamp-fridays-2021>

Give2SF Fund

<https://sf.gov/give-city-respond-covid-19>

Local Legends Crowd-Funding Toolkit

<https://www.gofundme.com/local-legends>

The Music Workers Alliance

<https://musicworkersalliance.org/howarewesurviving>

New York City Covid-19 Emergency Relief Funds

<https://www1.nyc.gov/site/fund/initiatives/covid-19-emergency-relief-fund.page>

New Zealand Emergency Relief

<https://www.creativenz.govt.nz/find-funding/funds/emergency-relief-grant>

The Stud Worker Co-operative

<https://www.studsf.com/about>

United We Stream Asia

<https://unitedwestream.asia/>

ARTICLES AND REPORTS

Brook, O' Brien and Taylor, (2020). Culture Is Bad For You.

<https://manchesteruniversitypress.co.uk/9781526144164/>

De Pueter, G. (2014). Confronting precarity in the Warhol economy: Notes from New York City. Journal of Cultural Economy, 7(1):31-47.

<https://www.tandfonline.com/doi/abs/10.1080/17530350.2013.856337>

The Economic Mapping of the Cultural and Creative Industries

<https://www.southafricanculturalobservatory.org.za/assets/reports/capstonereport.pdf>

Fernandez-Reino et al. (2020). From low-skilled to key workers: the implications of emergencies for immigration policy. Oxford Review of Economic Policy, Volume 36, Issue Supplement 1.

https://academic.oup.com/oxrep/article/36/Supplement_1/S382/5840657?rss=1

Florida, Richard, Selman, Michael (2020). Lost Art: Measuring COVID-19' s devastating impact on America' s creative economy. Brookings Institution.

https://www.brookings.edu/wpcontent/uploads/2020/08/20200810_Brookingsmetro_Covid19-and-creative-economy_Final.pdf

Germany short time working allowance

<https://se-legal.de/short-time-workingallowance-in-germany-covid-19-coronavirus/?lang=en>

The Gig Economy Data Hub

<https://www.gigeconomydata.org/basics/what-gig-worker>

ING Bank - Losses in the Dutch nightlife sector

<https://www.ing.nl/zakelijk/kennis-over-de-economie/uw-sector/outlook/horeca.html>

IQ Mag - Tax Breaks for German Nightclubs

<https://www.iq-mag.net/2020/11/tax-break-for-german-nightclubs/#.X8PXRIBOnIU>

London Nighttime Commission Report

https://www.london.gov.uk/sites/default/files/ntc_report_online.pdf

Losses to the Korean tourism and entertainment sectors

<https://en.yna.co.kr/view/AEN20201007004300315?section=culture/arts-culture>

Measuring the impact of the Covid-19 Crisis on the Cultural and Creative Industries in South Africa: An early assessment May 2020

<https://www.southafricanculturalobservatory.org.za/assets/reports/covid19impactsurveyreport9.pdf>

Montalto, V., Sacco, P. L., Alberti, V., Panella, F., Saisana, M., (2020). European Cultural and Creative Cities in COV/0-19 times: Jobs at risk and the policy response, EUR 30249 EN, Publications Office of the European Union, Luxembourg (2020). ISBN 978-92-76-19433-0, doi:10.2760/624051, JRC120876.

<https://publications.jrc.ec.europa.eu/repository/handle/JRC120876>

Music In Africa Foundation, The Financial Impact of Covid-19 on the African Music Sector: The First Two Months. (2020).

<https://www.musicinafrica.net/sites/default/files/attachments/article/202005/miafreport-thefinancialimpactofcovid-19.pdf>

Music Minds Matter - UK Mental Health Study

<https://www.musicmindsmatter.org.uk/the-study>

OECD - Covid-19 and the Cultural and Creative Sectors

<https://www.oecd.org/coronavirus/policy-responses/culture-shock-covid-19-and-the-cultural-and-creative-sectors-08da9e0e/>

OECD - Overview of job retention schemes globally

<https://www.oecd.org/coronavirus/policy-responses/job-retention-schemes-during-the-covid-19-lockdown-and-beyond-0853ba1d/#section-d1e1861>

Oxford Internet Institute - Fairwork Foundation.

<https://fair.work/en/fw/homepage/>

RIAA

<https://www.riaa.com/wp-content/uploads/2018/09/RIAA-Mid-Year-2018-Revenue-Report.pdf>

Sally Ann Gross & George Musgrave. (2020). Can Music Make You Sick? Measuring the Price of Musical Ambition. University of Westminster Press.

<https://westminsterresearch.westminster.ac.uk/item/v109w/can-music-make-you-sickmeasuring-the-price-of-musical-ambition>

Tech Crunch - The Growth of Patreon

<https://techcrunch.com/2020/03/26/over-30k-creators-joined-patreon-this-month-ascovid-19-outbreak-spreads/>

United We Stream Asia

<https://unitedwestream.asia/>

07 Project Team

CONTRIBUTERS

CHAPTER LEAD:



Tara Duvivier is a Senior Planner at the Pratt Center for Community Development in New York City. She is a native New Yorker who seeks to improve the lives of marginalised groups - as they have contributed the most to the development of New York City as a global cultural hub. A certified urban planner, she has spent most of her career working in affordable housing development but has recently shifted solely to planning, working with communities to address issues around economic resilience and racial justice. She is a DJ and event producer, extending her day practice into nightlife by supporting various scenes throughout the city and seeking ways to improve working conditions for her peers.

Twitter: @djtara
Instagram: @djtaranyc

CONTRIBUTORS:



Dr. Siphon Sithole is a Research Fellow at the Johannesburg Institute of Advanced Study (University of Johannesburg), South Africa, and holds a PhD degree in Anthropology from the University of the Witwatersrand (South Africa), a MSc. degree from the London School of Economics and Political Science (University of London), and a BSc. degree in Politics and International Relations from Lincoln University of Pennsylvania. As a cultural practitioner and scholar, Dr. Sithole's research interests are marginality and belonging, culture and celebration, labour migration and integration, post coloniality and re-imagining, as well as isolation and resilience.

Twitter: @DrSiphonSithole
Instagram: @malambule
Facebook: @malambule



Merlijn Poolman started his career with organising metal shows and tours and electronic music events. Since 2018 he has been the Night Mayor of the Dutch city of Groningen. As leader of the Groningen Night Council, member of the Dutch Popcoalitie (advisory board to the government) and former European Music Council fellowmember. He has spent many years doing cultural exchange in China, and organised the Yin Yang music festival at the Great Wall of China. In 2018 he set up a service called Gateway to China, that offers Chinese social media accounts and content creation to Western artists. His newly formed Cosimo Foundation raises funding for cultural projects and creates partnerships with the business world.

Facebook: @merlijn.poolman
Youtube: @MerlijnPoolman
LinkedIn: @merlijn-poolman-a4659212/
merlijnpoolman.nl
cosimofoundation.nl



Kate Durio is the CEO of North America for Sound Diplomacy. Previously, she was the Chief Cultural Officer and advisor to the Mayor-President of Lafayette, Louisiana where she founded the city and parish's first cultural economy initiative and directed its \$535,000 annual budget. Kate is also the Founder and President of the Culture Crowd Agency, a cultural economy consulting firm. Kate is based in her native Lafayette, Louisiana where she has earned numerous awards and recognitions for her role in several performing arts activations and public art contributions.

Twitter: @sounddiplomacy
Twitter: @musiccitiesd



Dr Julius-Cezar MacQuarie is an anthropologist trained and affiliated with the Centre of Policy Studies, Central European University. He is concerned with the invisibility of migrant night shift workers from discussions on today' s capitalism. He founded the NIGHTWORKSHOP to research night work in global and smaller cities.

Twitter: @tweetsfromdrjc

Twitter: @anightworksop

INTERVIEWEES:



Rafael Espinal is a former American politician and now Executive Director of Freelancers Union. In the New York City Council he represented the 37th District in Brooklyn. In 2017, Espinal was named one of Time Out New York' s "New Yorkers of the Year" , largely in recognition of his advocacy in repealing the no-dancing New York City Cabaret Law, enforcement of which disproportionately targeted LGBTQ and ethnic minority venues and he then created the city' s Office of Nightlife and Night Mayor, dedicated to supporting DIY art spaces, music venues, bars and restaurants.

Twitter: @RLespinal

Instagram: @RLespinal



Peter Kwint is a Dutch politician, currently serving as a Member of Parliament for the Socialist Party.

Twitter: @peterkwint



Phuong Le is the founder of Homeaway Agency. Originally from Vietnam but Switzerland born & bred, Phuong Le has been active in the entertainment industry for more than 15+ years. Homeaway Agency is a booking & touring agency connecting the west & the east, handling Asia Tours for renowned international DJs but also focusing on supporting local Artists regionally and internationally. In 2019 she joined the Polygon Productions team as their Music Curator, to bring the first 360 3d immersive hyper real sound stage into the world. Together with Clubcommission Berlin, Clubbingtv, mixmag asia and the support of Goethe Instituts & French embassies in Asia, Phuong started United We Stream Asia to save club Culture and giving local talents an international platform to showcase their talents during Covid-19, with currently over 40 streams in 13 countries & 21 cities.

homeaway-agency.com



Eline Van Audenaerde is the founder of The Unicorn Mothership. Eline is a holistic (night)life coach for driven DJs & producers who want to move the needle in dance music.

Instagram: @unicorneline

Instagram: @theunicornmothership

Facebook: @theunicornmothership

07 Project Team

TEAM

Michael Fichman is a city planner, researcher and lecturer at PennPraxis at the University of Pennsylvania's Weitzman School of Design. He is also a nightlife organiser and musician, and is an Emerging City Champions fellowship recipient for his work with 24HrPHL.

Richard Foster is PR and Communications Manager at WORM, a Rotterdam-based multimedia alternative cultural centre and network organisation at the intersection of (popular) culture and (performing) arts. His writing appears regularly in The Quietus, The Wire, Louder than War, and other music and academic publications.

Berlin Clubcommissioner **Lutz Leichsenring** + former Amsterdam night mayor **Mirik Milan** are co-founders of VibeLab, which engages, connects, and counsels crosssector stakeholders to keep cities vibrant and flourishing after dark. VibeLab has consulted on the formation of nightlife offices and commissions in London, Madrid, New York, Tokyo, Vienna, Los Angeles, and more, and continues to facilitate idea exchange and implementation for communities, institutions, government agencies and brands worldwide.

Diana Raiselis is a German Chancellor Fellow with the Alexander von Humboldt Foundation, researching the role of nightlife in sustainable cities. She is a founding member of the Los Angeles Nightlife Alliance.

Andreina Seijas is a Venezuelan researcher and international consultant in nocturnal governance and planning. She is currently a Teaching Fellow, Research Fellow and Doctoral Candidate at the Harvard University Graduate School of Design.

Jia Yuan is a Summer Design Fellow at PennPraxis at the University of Pennsylvania's Weitzman School of Design. She is also an urban planner and researcher focusing on sustainable transportation planning and data-driven planning.

発行団体



ナイトタイムエコノミー推進協議会

JNEAは、夜間経済の活性化を観光・文化・街づくりの重要テーマと捉え、政府・自治体・DMO・民間企業間の連携やプロジェクト支援を行うために2019年に設立した組織です。JNEAでは、夜間経済にとどまらず日本の観光産業の発展につながる様々なコンテンツ、また新しい文化の創出の可能性など幅広い視野に立ち、活動を行っています。

代表理事：齋藤 貴弘 (Field-R 法律事務所弁護士)

理事：梅澤 高明 (AT. カーニー日本法人会長 | CIC Japan 会長)、永谷 垂矢子 (株式会社 an 代表取締役 | 立教大学経営学部客員教授)

Project Team Members : Shizuko Yokote, Kana Ito

協力

NEWSKOOL

合同会社 NEWSKOOL

NEWSKOOLは、ナイトタイムを起点として様々な分野の課題に解決策を提供するコンサルティング会社です。新しい考え方をもったクリエイティブコミュニティと、蓄積された知見を武器に、今までにない体験や持続可能な経済圏を設計しています。

私たちは、これからのまちづくりの中核を担っていく若者自身でもあることを強みとしています。実際のターゲットと同じ目線で施策を評価したりアイデアを生み出したりすることができます。

私たちの最終目標は、人々が自分にあった生き方を選べる社会プラットフォームをつくること。様々なプロジェクトから得た経験と専門家としての知見を活用し、企業・行政・クリエイティブ人材・消費者を巻き込むナイトデザインを推進していきます。

Project Team Members : Yoshihito Kamada, Kai Kojima, Watanabe Haruna, Kotaro Okada, Momoka Tokunaga